

## 文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究(シ01)

**目的** 国内外の諸機関との連携を見据え、当研究所の文化財に関する調査研究成果・データをより国際的標準に見合うかたちに整え、効果的に共有してゆくための研究を行う。併せて地方公共団体と文化財に関する情報の提供と共有を行うことを視野に入れる。

**成果** 1. 調査研究成果の公開と、研究情報の国際発信

- ・令和元年度に引き続き、当研究所刊行の論文等を国立情報学研究所が運営する学術機関リポジトリデータベース(IRDB)を通じて公開する作業を進め、『美術研究』、『無形文化遺産研究報告』、『保存科学』『在外日本古美術品保存修復協力事業報告書』など118件を今年度新たに追加し、合計13タイトル3,749件の論文・刊行物のフルテキストを掲載・公開した。
- ・アメリカ・ゲッティ研究所との共同研究を推進し、国際連携による共同研究事業を効果的に進めていくための協議を行った。ゲッティ研究所との共同研究を推進し、国際連携による共同研究事業を効果的に進めていくための協議を行った。
- ・展覧会カタログ所載記事・論文のデータを「東京文化財研究所美術文献目録」として、世界最大の共同書誌目録データベースであるOCLCのセントラル・インデックスに情報を提供し、今年度は2017(平成29)年の文献情報4,440件を追加した。

2. 国内外の関連機関との共同研究・協議

- ・京都府所蔵昭和初期文化財調書の20,000点のデジタル画像のうち約11,100件のメタデータを追加したほか、調査撮影フィルムのデジタル化を進め、データベース構築を行い、公開活用のための協議を行った。
- ・イギリス・セインズベリー日本藝術研究所と日本美術及び同研究に関する英語文献・記事情報の採録に関する運用面での協議をオンラインで行った。
- ・資料の特性により様々な形態・プラットフォームでオープンアクセス資料を増やしてインターネット上で広く国内外に提供するとともに、成果発表を行った。



オンライン開催のアートドキュメンテーション学会での発表

**発表** 橘川英規、田村彩子、阿部朋絵、江村知子、山梨絵美子：「葛飾北斎絵入り版本群・織田一磨文庫のオープンアクセス事業—ゲッティ研究所との協同による書誌情報国際発信の実践（古典籍書誌整備と資料保全）」、アート・ドキュメンテーション学会第13回秋季研究集会（オンライン開催） 20.11.28

**研究組織** ○江村知子、橘川英規、安永拓世、米沢玲、二神葉子、小山田智寛、小林公治、塩谷純、小林達朗、小野真由美、城野誠治、阿部朋絵、田村彩子（以上、文化財情報資料部）、久保田裕道（無形文化遺産部、文化財情報資料部兼務）、早川典子（保存科学研究センター、文化財情報資料部兼務）、西和彦（文化遺産国際協力センター、文化財情報資料部兼務）、永崎研宣（客員研究員）